

## 風化させない

71年目のヒロシマ

①

1945年8月6日 午前8時15分に、広島市安佐南区に原爆が投下された。約14万人の死者を出した核兵器は、71年たつ今も大きな爪痕を残す。しかし、原爆の記憶は年月がたつにつれ風化し、平和都市を宣言する広島市では、次世代へ原爆の記憶を継承する取り組みが進んでいる。同市が主催するジャーナリスト研修「ヒロシマ講座」に参加して体験談を語った後、子どもたちから投げ掛けられた。「今の作り取材した。」

(鳴門支局・大城咲)

## 「伝わらぬ」危機感募る

ど前、大阪府の小学校休みで、仲良し3人組で「疎開先で食べるものがなくて、いつもおで宮島へ行く約束をし子どもたちから投げ掛けられた。「今の作り取材した。」

話?」「平和な時代に生まれた時、辺りがびかつ？」と質問されたとい



原爆ドーム近くでポケモンGOをする若者  
＝広島市中区の平和記念公園

る。「ドームは、何となく気軽に訪れるコンビニのようなものかも」と例えた。

れているから、昔のこと光り、目がくらんう。子どもには想像もとが分からないのでしだ。気が付いたときにつかなかつたのかもしょう」竹岡さんは年は30歳ほど体が飛んれない。

月の流れを感じずには竹岡さんは、原爆がいられなかつた。竹岡さんは、原爆が投下された當時17歳。工場で兵器を作っていた。投下された6日は

同じく被爆者として体験談を語る岡田惠美子さん(79)＝同市東区

も今年の初め、子どもからショックな言葉を掛けられた。広島県内の体験講話園は観光客や修学旅行

れていた。頭から倒れていた。頭からに被爆し、姉は建物疎開の作業に出て、そのまま帰らぬ人となつた。遺体も見つかっていい。今年の原爆投下の日が近づいていた7月下旬、同市の平和記念公園は観光客や修学旅行

は「今は戦争体験のない人が多い。風化していくと、同じことを繰り返すのではないかと怖い。もう一度とあんな戦争をしてはならない」と力を込める。「一人でも二人でも、きのこ雲の下で何があったのか知つてほしい」と、体験を伝え続けていく考えだ。

同市によると、全国

の被爆者は17万408

人、平均年齢は80・86歳。体験を直接聞けなくなる日は確実に近づいている。